



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

95.1.20 No. 4127

## 「202億訴訟」の「和解」について 新たな国鉄解体攻撃を許すな

# 95年も、連署集団闘争勝利の年に

### 「合意」の意味 を見すえよう

昨年十二月二四日、国労と清算事業団は、「二〇二億訴訟」の取り下げと国労会館明け渡しに関する合意書に調印した。また、この合意書調印の前提として、国労は、「1. 国鉄労働組合は、国鉄が分割・民営化されたことを認める。2. 健全かつ正常な労使関係の構築に努力する」とする態度表明の文書を運輸大臣亀井静香宛に提出した。

われわれは、この事態のもつ意味をはつきりと見すえなければならぬ。  
自民党・亀井のヘゲモニーのもとに行なわれた、今回の「二〇二億訴訟」の取り下げは、明らかに、国労の取り込みと解体、国鉄闘争の幕引きを目的とした重大な攻撃である。まず先にあったのは、明らかに「いかに清算事業団闘争を解体するのか、いかに国労を取り込むのか」ということだ。そして、そのワンステップとして、「二〇二億訴訟」の取り下げという新たな手段がとられたのである。  
九五年、解雇撤回・清算事業団闘争勝利に向けた闘いは、最大の勝負のときを迎えた。この

間の闘いのなかで培ってきた一切の力を発揮して闘いにたち上がる。全国にはばたこう！  
運動を大胆に発展させ、国鉄闘争勝利に向けた大きな闘いの陣形を全国につくりあげよう。新たな十万人首切り合理化攻撃、「JR体制」の反動的再編攻撃と対決し、「JR体制」を揺るがす闘いに決起しよう。

### 三つの攻撃

われわれは、この攻撃の本質を見る場合、単に、国鉄闘争と、ういレベルのみならず、時代総体の動向のなかでとらえることができないければ、判断を誤ることになると考える。

昨秋から年末にかけて、支配権力の弾圧をはね返し、頑強な闘争を継続している三つの闘いの岩に対して、これまでとは明らかに構えを変えた攻撃が相次いで仕掛けられた。

ひとつは三里塚闘争であり、もうひとつは狭山闘争であり、そして今回の国鉄闘争である。三里塚では、政府・公団が、この間の経緯を「謝罪」し、事業認定を取り消すという判断を行い、部落解放闘争の最大の拠点である狭山闘争では、「罪を認め悔悛の情を示す」という要件

を無視して、石川さんを非転向のまま「仮釈放」した。そして、国鉄闘争をめぐる特段、闘争が潰せる補償があるわけでもないにもかかわらず、この間、国労をゆさぶる最大の武器としてきた「二〇二億訴訟」を取り下げたのである。

### 勝利の地平と 主体の側の危機

これまでとは様相を異にしたこの攻撃の出発点には、力で闘いをおし潰すことを基本としてきたこれまでの攻撃の延長線では、これらの闘いを解体することができない、という判断がはたらいたことは明らかである。

国鉄闘争について言えば、一〇四七名の仲間たちが、「五・二八解決案」や「一二・二四中労委命令」にも微動だにせず、「自活体制」を築いて、何年かかろうと、全員の解雇撤回まで闘うという決意を燃やし続けている以上、敵の側には、もはや打つ手が無いのである。

しかも、大失業時代が到来する情勢のなかで、国鉄闘争が意気軒高と闘いぬかれています。これは、権力側にとって、膨大な労働者の怒りが、いつここに結集するかもしれないという意味で

大変な恐怖である。

「二〇二億訴訟」の取り下げは、敵の側にとっても両刃の刃だ。だからこそわれわれは、この事態のなかに、この間の闘いが、ここまで敵を追い詰めてきたこと、そのきり開いてきた勝利の地平を確認することができ。しかし一方、支配階級の側は、このような手段をとれば、国労を籠絡し、闘いの幕引きを謀ることができると判断したからこそのやっかという側面も見なければならぬ。つまり、主体の側の危機という両側面から今回の攻撃をはつきりと見すえる必要がある。

### 並行する行動

家族会定期総会

とき 二月五日(日)

一三時から

千葉県社会センター

各支部からこぞって参加を

乗務員分科会定期委員会

とき 二月九日(木)

一〇時から

千葉県市民会館

第三三回動力千葉定期委員会

とき 二月一五日(水)

一三時から

千葉県市民会館